

# JIS

## 鉄鉱石—蛍光 X 線分析方法

JIS M 8205 : 2000

(JISF/JSA)

平成 12 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## まえがき

この規格は、工業標準化法第14条によって準用する第12条第1項に基づき、社団法人日本鉄鋼連盟(JISF)／財団法人日本規格協会(JSA)から工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって JIS M 8205 : 1983 は改正され、この規格によって置き換えられる。

JIS M 8205 には、次に示す附属書がある。

附属書(規定) 蛍光X線分析方法

日本工業規格

JIS  
M 8205 : 2000

## 鉄鉱石－蛍光 X 線分析方法

## 正 誤 票

区分	位置	誤	正
本体	9.2	$CB = 2.0 \sqrt{\frac{\sigma_{RW^2}}{n + \sigma_{chem^2}}}$	$CB = 2.0 \sqrt{\frac{\sigma_{RW^2}}{n} + \sigma_{chem^2}}$

平成 15 年 5 月 15 日作成

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 58.11.1 改正：平成 12.3.20

官 報 公 示：平成 12.3.21

原 案 作 成 者：社団法人 日本鉄鋼連盟

(〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目9-4 TEL 03-3279-3623)

財団法人 日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂4丁目1-24 TEL 03-5770-1573)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 鉄鋼部会 (部会長 木原 諄二)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部標準業務課産業基盤標準化推進室 [〒100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1 TEL 03-3501-1511(代表)] にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

鉄鉱石—蛍光X線分析方法

正 誤 票

区分	位置	誤	正
本体	附属書表3 りん, 室内再現 許容差の欄	$D(n) [0.00318 \times W + 0.0119]$	$D(n) [0.00318 \times W + 0.00119]$
	附属書 9.2	$CB = 2.0 \sqrt{\frac{\sigma_{RW}^2}{n + \sigma_{chem}^2}}$	$CB = 2.0 \sqrt{\frac{\sigma_{RW}^2}{n} + \sigma_{chem}^2}$
	附属書 9.2	$\sigma_{chem}$ : …室内再現標準偏差	$\sigma_{chem}$ : …室間再現標準偏差

平成 16 年 12 月 1 日作成